

第三者意見



今年度の「CSR報告書」は、最初に関西国際空港がなぜ必要であったかという歴史的経緯を説明し、それから三つの特集を組んでいる。国際貨物のハブ空港、お客様が満足するサービス、そして自然と調和する関西国際空港を目指していることを明示している。これらは、当初から大切にしている「安心・安全」、「お客様第一主義」、「環境にやさしい」、「地域との共存を図る」という関西国際空港の理念に合致したものである。

企業は利益の追求だけではなく、社会に与える影響に責任を持ち、すべてのステークホルダーに対して説明責任があるので、CSR報告書は非常に大切な意味を持っている。本「CSR報告書」は、関西国際空港のメリットや将来性のみならず課題も客観的に記載しているので、説明の丁寧さ、内容の豊富さ、公平性などから見て、非常に高く評価されるものであると言える。ただ、写真などは綺麗であるが、文章がやや多くて読みづらいと感じる読者もいるかも知れない。

関西国際空港は関西の経済や地域の活性化と密接に繋がっているため、今後国際貨物量の拡大、LCCの誘致、アジアとの交流、交通アクセスの向上、地域の企業や自治体との協力、観光の振興などを通じて一層の発展を図っていくべきである。

関西国際空港では新しい組織を立ち上げ、空港会社としてのCSR活動を熱心に追求しています。その中心は、「アジアそして世界と関西を結ぶゲートウェイ」と「国際貨物ハブ空港」という二つのビジョンです。この二つのビジョンは特集でも詳しく取り上げられ、会社の社会的使命として展開されていることが示されています。

このような二つのビジョンのもとで、関西国際空港としてのCSRをより一層明確されることが重要だと思います。事業とCSRは一体化して進めるべきですが、その最先端のところを特にCSRとしての課題として位置づけて全体を牽引するような構想が必要になると思われます。その全体的な方向性のもとで個別目標を位置づけて活動を展開されれば、すでに環境や従業員施策など十分な活動を実施されているのですから、より体系的なCSR経営が実現できると考えます。

また、地域密着した関西国際空港では、ステイクホルダーとの双方向のコミュニケーションが重要です。関西国際空港では地域社会とのさまざまなコミュニケーションを実施しておられ、本報告書でも詳しく解説されています。これは非常に重要な活動として評価できます。今後は、このようなコミュニケーションを通じて、CSR活動を評価したり、マテリアリティ（重要性）の観点から、CSRとして対処すべき優先事項を検討することも重要となると思います。

関西国際空港の取り組みは、空港会社のCSR経営のモデルとなるよう、発展を期待しています。

第三者意見をいただいて

当社にとって3回目となる「CSR報告書」を取りまとめるにあたり、宮本勝浩関西大学大学院教授、國部克彦神戸大学大学院教授からご意見を頂戴することができました。一定のご評価とともに、今後に向けての課題もご指摘いただき、CSR活動の重要性を再認識しているところです。

本報告書冒頭に記載の通り、関西国際空港は高度経済成長期の航空需要の急増、大阪国際（伊丹）空港の騒音をはじめとする環境問題などの社会経済状況を背景に構想されました。沖合5kmの海上に滑走路が4,000m級の空港という計画は、航空機騒音防止と空港機能との両立に取り組まれた先人の苦闘の表われです。このこと一つをとっても、関西国際空港は生まれながらにして「その存在自体がCSR」といっても過言ではありません。それだけに、そのような歴史を忘れることなく、日々CSR活動を深化させ、経営の中に構造化していくことは空港経営に携わる当社の責務であると考えます。また、そのことが必ずお客様満足（CS）の向上につながるものと確信しています。

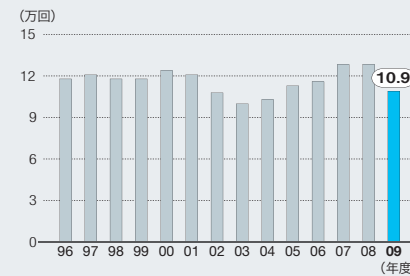
当社では2010年6月、「コーポレート・コミュニケーションセンター」を設置し、CSR活動の中核組織としました。今後とも、当空港ならではの空港価値の創造・増進に向け、グループ全社挙げて取り組んでまいります。

宮本教授、國部教授には心から感謝申し上げますとともに、さらなるご指導ご鞭撻をお願いいたします。

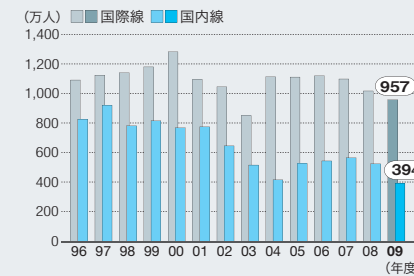
関西国際空港株式会社
専務取締役
伊藤 誠

関西国際空港の概要

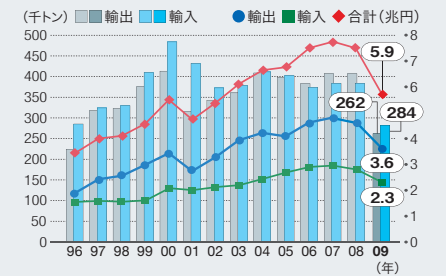
発着回数



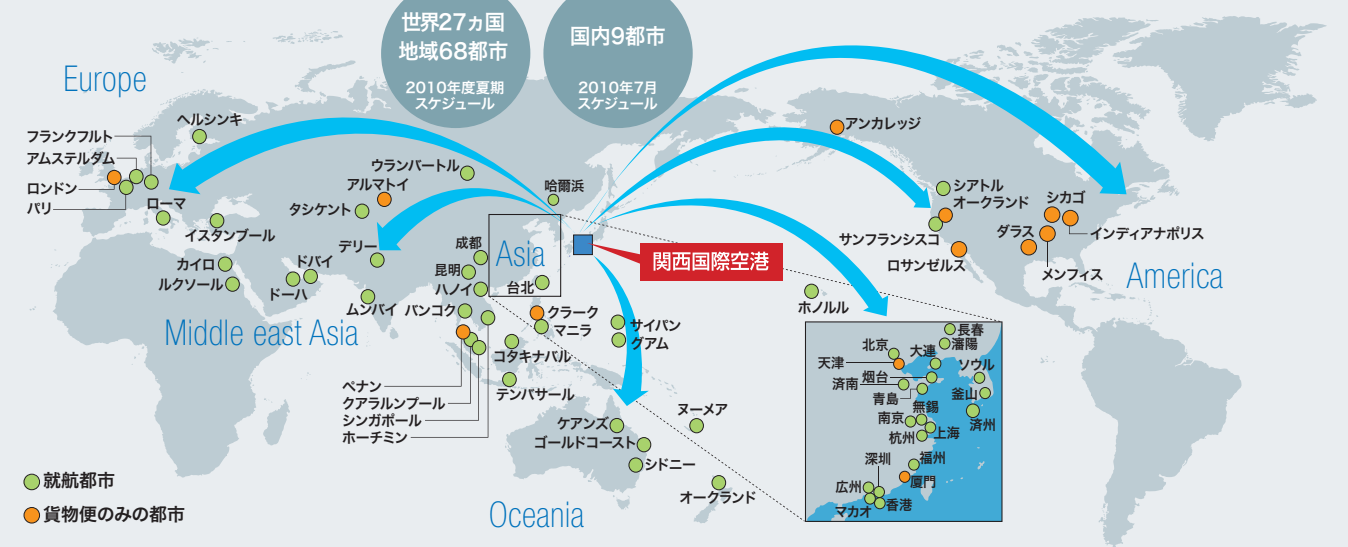
航空旅客数



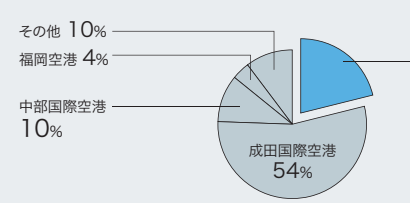
国際貨物取扱状況



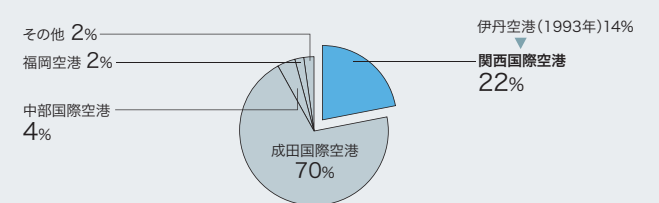
ネットワーク



日本人出入国者の割合 (2009年)



輸出航空貨物の割合 (2009年)



関西国際空港株式会社 (KIAC) の概要

社名 関西国際空港株式会社
設立年月日 1984年10月1日
本社所在地 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 関西国際空港会社ビル 〒549-8501
代表者 代表取締役社長 福島 伸一
資本金 8,138億2,000万円
主な事業
当社は、関西国際空港の設置および管理を行うために、国・地方自治体・民間の共同出資で設立された特殊会社です。
主な事業は以下のとおりです。
・関西国際空港の設置および管理
・関西国際空港の航空保安施設の設置および管理
・関西国際空港に係る機能・便利施設の建設および管理
・関西国際空港の連絡橋の建設および管理
・関西国際空港の連絡鉄道施設の建設および経営

関西国際空港 (KIAC) グループ会社
当社の連結子会社7社は、以下のとおり、空港の運営を図る上で必要な事業を行っています。
・関西国際空港熱供給株式会社 (KHC)
空港島内における熱供給事業
・関西国際空港用地造成株式会社 (KALD)
2期事業用地造成
・関西国際空港情報通信ネットワーク株式会社 (KNET)
空港島内における情報・通信サービス事業
・関西国際空港給油株式会社 (KAFS)
航空機への給油事業、給油施設の運営・管理事業
・関西国際空港施設エンジニア株式会社 (KFE)
空港施設維持管理業務、環境衛生管理業務
・関西国際空港セキュリティ株式会社 (KIAS)
空港島内における警備・消防・防災業務
・株式会社関西エアポートエージェンシー (KAA)
保険代理店業、旅客サービス業、直営店舗事業

